



亀っ子だより

第30号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2020年11月30日

2階の男子トイレで・・・

ある日、2年生教室隣の男子トイレをのぞいたときのことです。4年生の男子が、トイレのスリッパをそろえていてくれました。以前にも校長だよりで書きましたが、このトイレは男女ともたくさんの人が使うのでなかなかスリッパがそろいません。スリッパがそろわないと、悪循環でどんどんそろわなくなることが世の常です。その循環を断ち切ることは、すごくエネルギーのいることです。スリッパがそろうことをあきらめかけていた私ですが、この男の子の姿に「何をあきらめているのだ」と叱られたように感じました。亀崎小のトイレのスリッパが、次に使う人のためにそろうよう働きかけていきます。

イチョウの葉があまりに きれいだったので・・・



先日の朝、2階の渡りを歩いていてふと外を見ると、体育館とプールの前の2本のイチョウの木の下が、まるで黄色の絨毯のようでした。あまりにきれいだったので、廊下ですれ違う子をつかまえては「きれいでしょう」と連発していました。時にはイチョウの木の下まで行って、風で舞うイチョウ吹雪と一緒に味わってくれた子もいました。急いでいる子にとっては迷惑だったかもしれませんが、どの子も嫌な顔をせず付き合ってくれました。子どもたちに感謝！！

3年生が、潮干祭について 学んでいました

少し前のことですが、学校運営協議会委員でもある間瀬さんに来ていただき、3年生が潮干祭のことを学びました。潮干まつりでは、なぜ5台の山車が神崎神社から三社の間を2日間かけて行き来するのか、潮干祭はいったい何年前から始まったのかなど、自作のプレゼン資料を使いながら子どもたちに分かりやすく話していただきました。最後に子どもたちの質問にも答えていただきました。その中で、「潮干祭では、どうして女の子は参加できないのですか」と質問をした女の子がいました。その質問に対してそれは見事に答えていただきました。そして、「亀崎潮干祭の山車行事が国の重要無形民俗文化財に指定されていて、『山・鉾・屋台行事』の構成遺産としてユネスコの無形文化遺産に登録されているのは、地域の人たちが300年以上、形を変えずに今も祭を大切に守っているから」と説明していただきました。今の世の中、時代の移り変わりがとても速く、それに乗り遅れまいと必死になってるところが自分にはあります。そのようなものとは正反対に、長きにわたって変わらない潮干祭の価値は、まさに世界の無形文化遺産に値するものと納得しました。子どもたちにとって有意義な時間だったと思いますが、私にとっても多くの学びのある時間となりました。間瀬さん、ありがとうございました。



信号機のない横断歩道で・・・その後

校長通信No.29で、「長野県の子どもたちは、信号のない横断歩道で一旦停止してくれた車に対して、横断歩道を渡り終わると頭を下げ感謝の気持ちを表すのだそうです」という話を紹介しました。その後、あるボラパトさんから以下の話を伺いました。「校長通信に横断歩道で止まってくれた車にお辞儀をする話を書いたでしょう。そのあと、横断歩道を渡り終えた後、止まってくれた車にお辞儀をする子が一人いたよ」と。その話を聞いて、とてもうれしく思いました。きっとその子は、校長通信を読んでやってみようと思ひ、行動に移してくれたのでしょう。考えていることが通じたのかなと思ひ、幸せな気持ちになりました。そんな輪が、亀崎小で広がっていくことを、ひっそりと願っています。



本物はすごい！

日常の学習活動に近づけようと、各学年の先生たちが努力してくれています。その一つとして、ゲストティーチャーに参加をしてもらった授業を多く見ました。前述の間瀬さんはじめ、おまわりさん、ボラパトさん、ミシンを教えてくれるお母さん、防災交通課や財務課の職員さんetc.。授業を見学していた私にとって、実際に携わっているゲストティーチャーの話は、とても説得力を感じるものでした。きっと子どもたちにとっても、強く印象に残る授業になったものと思います。私見ですが、授業の中で子どもが感動することはあっても、教師が子どもに感動を教えることはできないと考えています。しかし、ゲストティーチャーをお招きした授業で、感動した子どもは何人もいたことでしょう。「本物には勝てない！」「本物はすごい！」と感じました。授業に快く来てくださった皆さんに感謝！

♣ 子育てアラカルト ♣

【子どもというものは その2】

〈いろいろな花〉

あなたのお子さんを「花」に例えると何の花だろうか？

花の色も形も、咲く季節もいろいろだ。

チューリップのように春に咲く花もあれば、菊のように秋に咲く花もある。また、サザンカのように寒い冬に咲く花もある。それぞれの花が、それぞれに咲くための準備をしっかりと、時期がくると美しく咲き誇る。

あなたのお子さんの花は、まだつぼみの段階だ。今は根に栄養を蓄えている時なのだ。根がしっかりとあれば、何の心配もない。

時が来れば、美しい花がきっと咲くことだろう。

今のうちに根に十分に栄養を蓄えよう。

子どもは、その年齢に応じて不安なこと、思い通りにならないことがたくさんあるが、その一つ一つの体験がその根を太くしていく。

命と時間と夢を大切に、雨や風、嵐に耐えて、美しい花を咲かせる準備を見守りたい。

【心に刻む言葉】 親が子どもに与えたいものは「速度計」より「羅針盤」

（ある教育者のひとり言 より）